

学校だより



横浜市立つづきの丘小学校

つづきの空

1月号

令和6年1月12日

高めよう学び 広げようつながり 輝こう未来へ つづきの丘の子

花開き、成就する年 ～次世代を豊かに生き抜く力へ～

校長 田淵 恵子

2024年が幕を開けました。元旦の能登半島地震では、甚大な被害、そして、いまだ災害対応が困難を極めていることに心が痛みます。今なお不安な日々を過ごされている被災地の方々に、心よりお見舞い申し上げます。そして、一日も早い日常を取り戻されることをお祈りいたします。

保護者・地域の皆様には、旧年中、本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございました。今年も子どもたちが安全で安心して学校生活を送り、確かな成長を図れるよう職員一同、心を一つにして努めてまいります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



今年は辰年。十干十二支では「甲（きのえ）辰（たつ）」の年にあたります。「甲」は物事の始まりを、「辰」は植物が枝を勢いよく伸ばし、増えていくことを表しています。「甲辰」は、新しいことにチャレンジをして成功する、今まで積み重ねてきた努力が実を結ぶ年と言われています。子どもたちにとっても、夢や目標に向かってこれまで取り組んできたことが花開き、成就する年となるよう願っています。

後期後半に入り、子どもたちは、ますます豊かな学習活動を展開しています。昨年11月、5年生が神奈川工科大学 准教授 山崎 洋一先生をお招きして、プログラミング教室を実施しました。この出前教室は令和3年度から6年生向けに行っていましたが、今年度は5年生にも実施し、プログラミングへの興味・関心を高めています。今回は、コンピュータで「車を動かす」という課題に挑戦しました。車を決められたコースを辿りながら、ゴールまで動かす方法について考えました。自分が意図する一連の動きをさせるためには、コンピュータが理解できる命令を一つ一つ組合せ、一連の動きとして命令していきます。最初、子どもたちは戸惑いを見せていましたが、少しずつ慣れてくると車の方向を変えたり、速さを調整したりと試行錯誤しながら自分が求める動きに近づけようと、夢中になって取り組んでいました。車が自分の思い通りの動きをしてゴールに辿り着くと、とても嬉しそうにしていました。

小学校におけるプログラミング教育の主なねらいは、①「プログラミング的思考」を育むこと、②プログラムの働きやよさ、情報社会がコンピュータ等の情報技術によって支えられていることなどに気付き、コンピュータ等を上手に活用して身近な問題を解決したり、よりよい社会を築いたりしようとする態度を育むこと、③各教科等での学びをより確実なものにすることです。情報化の進展により予測困難な社会において、情報や情報技術を主体的・効果的に活用しながら課題を発見・解決していくためには、論理的・創造的な「プログラミング的思考」が必要となり、普遍的に求められる力とされています。「プログラミング的思考」とは、「自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合せが必要か、どのように改善すればより意図した活動に近づくのかということを論理的に考えていく力」とされています。今回のプログラミング教室での学びが、コンピュータの仕組みの一端を知る機会となり、「プログラミング的思考」のよさを実感し、身に付け、次世代を豊かに生き抜く力へとつながっていくことを期待しています。5年生は今後、1月15日に2回目の学習を行います。そして、6年生は2月に実施する予定です。



今年度の授業日数は、残すところ6年生は45日、1～5年生は48日です。子どもたちと笑顔で過ごせる日々感謝し、一日一日を大切に充実したものになるよう確実な一歩を進めてまいります。